

第578号

俱楽部

Naraken
Keizai
Club



一般社団法人 奈良県経済俱楽部

〒630-8215 奈良市東向中町6番地 TEL0742-23-3661 FAX0742-23-6844

HP <https://narakenkc.sakura.ne.jp> E-mail nakeiku@energy.ocn.ne.jp

印刷所 共同精版印刷株式会社

12月号

| | |
|---------------------------|----|
| 「奈良県の建設業の特徴について」火曜午餐会 | ①② |
| 「性差医療」と「リプロダクティブヘルス」火曜午餐会 | ③④ |
| 視察研修旅行〔日本平・忍野八海・美ヶ原温泉・松本〕 | ④ |
| 今月の予定 | ⑤ |
| くらぶのわ | ⑥ |

奈良県の建設業の特徴について

株式会社尾田組 代表取締役社長 尾田安信 氏

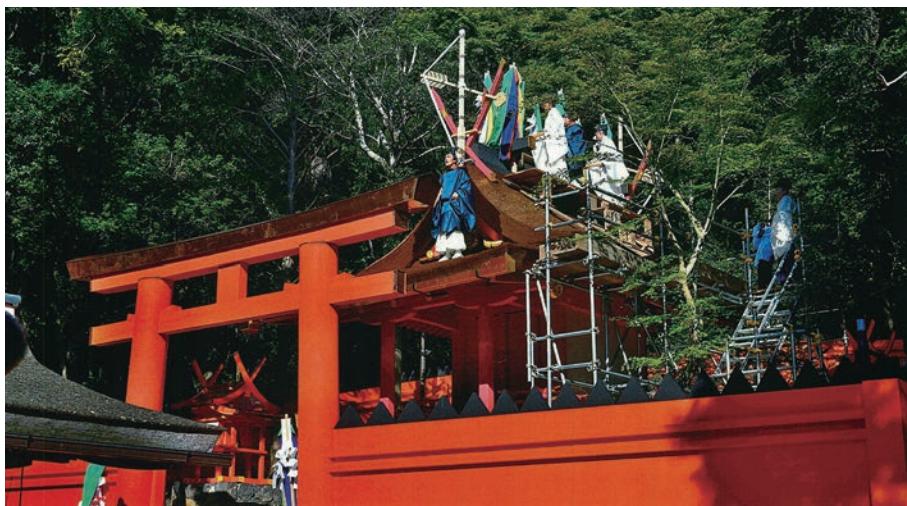
火曜午餐会第1例会を11月4日開催した。講師の尾田安信氏は1978年奈良市生まれ。2002年日本大学理工学部を卒業後、公成建設株式会社に入社。2012年株式会社尾田組に入社、2021年同社9代目の代表取締役社長に就任、現在に至る。



【尾田組について】

株式会社尾田組は江戸時代末期1830年頃に東大寺や春日大社の宮大工として創業。1830年に奈良奉行所から頂いた鑑札が残っている中で一番古い資料のため創業年としている。創業当初は社寺建築部と寺社仏閣のお祭りを担う祭事部

の2部署があったが、明治期に神仏分離令を受け荒廃していた興福寺境内地の整備や奈良公園造営工事を請け負うために土木部が、また、同時期に奈良国立博物館の建設に携わり現代建築や一般住宅を扱う一般建築部を設置。弊社は奈良の歴史と近代化に深く関わらせていただいた会社である。



2022年 春日大社若宮社本殿の式年造替での尾田社長（写真中央）

【奈良県と奈良県の建設業の特徴について】

奈良県は古来より歴史・宗教・文化の発展において重要な役割を果たしてきた都市で、東大寺など多くの世界遺産や歴史的建造物・遺跡を国民の財産として預かっている。奈良の建設業者は歴史的建造物や遺跡の保護・管理など重要な役割を担っている。例えば、当社が工事を担う興福寺五重塔の修復は明治以来の大規模工事だが、実は完成時の五重塔の姿は着工前とほぼ変わらない。奈良の歴史的建造物保存工事の特徴は、着工前と変わらない姿を完成させることだ。次に技術の継承だが、2022年に竣工した春日大社若宮社本殿の式年造替（20年毎に建物を建替える伝統行事）は、職人の世代交代サイクルと同じで、若い職人や技術者が伝統的建築技術を学び継承

する機会を得られる。この経験の蓄積は他の伝統建築や文化財修復においても役立っている。

修理方法の一つとして継手という大工技術がある。腐った部分を切断し切断部分と同じ新しい木材を用意し、切断面にT字型の目違いをつけ組み合わせ、込み栓という栓で固定することで高い強度をもった柱に戻すことができる。次に金輪継ぎ手（釘やボルト等を使わない技法）について紹介する。継手は10種類以上あり、継手技術を使うことで傷んだ部分だけを交換し古い木材を最大限に残すことが可能になる。

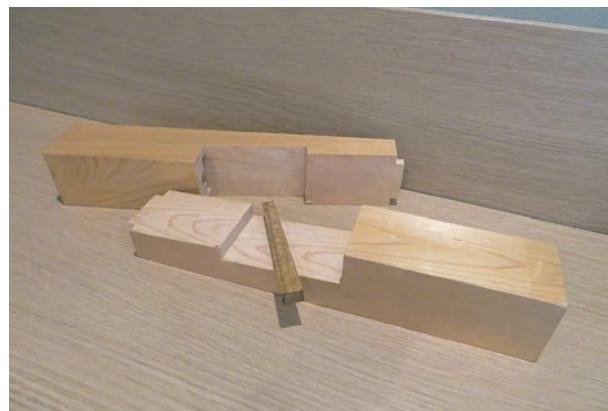
【サステナビリティ ～木造建築の寿命を 延ばすため～について】

日本は木の文化、欧州は石の文化と言われ、木材は我々日本人にとって最も身近な建築材料として

広く使用されてきた。木材は強度も強く適切に使用すれば長期間の使用に耐える優れた建築材料である。世界最古の木造建築である法隆寺はヒノキが使われており、法隆寺の木材の強さは伐採したばかりの木材と同様の強度を保っている。ヒノキは伐採後約200年間かけて乾燥することで強度が最大化し、その後約1000年以上かけて徐々に強度が低下する。木材の性質を理解することで法隆寺の秘密に触れることができる。

これまでの建築業界は主に「施工」分野で仕事をしてきたが、「点検・予防」という仕事に取り組むことで建物寿命を伸ばし維持費を削減できる可能性がある。この方向性は建設会社にとっては売上減少に繋がり自分の首を絞めるような事になる。それでも取り組むのは、先祖が残した奈良の景観や文化を次やその先の世代に残していくためだ。

最後に、私達が活動している奈良公園周辺の歴史とサステナビリティについてお話しする。奈良市は今から40年近く前に都市計画事業を行った。120年前の大仏殿は屋根が傾き庇を支柱で支えている状態であり、平城旧跡に至っては周囲一面水田で誰も都の跡とは認識しておらず、今の奈良ブランドを支える寺社や景観は全く重視されず消滅の危機に瀕していた。そんな状態から様々な糸余曲折を経て現在の姿になった。日本の国土はどんなに自然が豊かな場所でも人間の手が入っている。しかし、奈良は徒歩圏内に春日山原始林があり街には鹿がいる。そして建物や景観を守る人達また守ってきた先輩方がおり、他の都道府県にはない歴史の積み重ねがある。本日の話が皆様にとって奈良の未来を考えるうえでお役にたてれば嬉しく思う。



継手の模型



全輪継手工法での修復例



都市計画により整備された奈良公園

日本女性会議2025のテーマから 「性差医療」と「リプロダクティブヘルス」

日本女性会議2025かしら・副実行委員長／奈良大学・副学長／
奈良県立医科大学附属病院・女性専用外来担当 島本太香子 氏



火曜午餐会第2例会を11月18日開催。講師の島本太香子氏は奈良生まれ。1987年慶應義塾大学医学部卒業、1991年大阪大学大学院医学研究科終了（医学博士）、奈良県立医科大学産婦人科助手、大阪府健康福祉部参事を経て、2009年から奈良大学教授、2020年副学長就任。女性と子どもに関わる医療と保健福祉行政に携わった経験をもとに、大学では健やかに生きること、ライフキャリア、生命倫理と最新医療などについて若い世代と考察している。

奈良県と各市の男女共同参画審議会委員、奈良県子ども・子育て推進会議会長、奈良県医療審議会委員。奈良県で初めて女性の公安委員会委員をつとめた。産婦人科医としては、医大病院女性専用外来、なら犯罪被害者支援センター理事など、女性のライフコースを通じた健康支援に取り組んでおられる。

【1. 日本女性会議とは】

男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とした国内最大級の大会。1984（昭和59）年に名古屋市で第1回が開催されて以来、様々な都市でそれぞれのテーマ、スローガンを掲げ開催。2025かしらのメインテーマは「日本国はじまりの地から未来へ多様性を認め合う社会の実現を」であり、古来より多くの女性の活躍で発展してきた地で、今一度この地から多様な価値観を尊重し、誰もが自己実現できる社会をめざし未来につないでいきたい、との願いを込めている。

産婦人科医として、またこれまで県の男女共同参画推進審議会、子育て支援推進会議の委員をつとめたことから、「医療と健康」「リプロダクティブヘルスアンドライツ」に関する最新情報と課題を提示する分科会を企画・担当した。その一部を紹介したい。

【2. 性差医療とは】

（1）概念

①発症の男女比がどちらかに傾いている病態、②発症率は男女同

率であっても、男女で臨床的に差異を認める疾患、③未だに生理学的、生物学的解明が男女いずれかで遅れている病態、④社会的な男女のあり方と健康の関連 等に関する研究を進め、その結果を疾病的診断、治療法、予防対策に反映することを目的とした医療。

（2）性別による疾患の発生の違い（例）

①女性の患者数が多い疾患：骨粗しょう症、アルツハイマー病、②男女で病理が違う疾患：狭心症・心筋梗塞（虚血になるのが男性は冠動脈、女性は微少循環）、③男女で薬の作用機序、適正な使用量が違う、④男性の職場での飲酒と喫煙による発がん。

（3）性差医療の生物学的基盤

健康や病気について、男女の違いがあるのはなぜか。社会的な役割やライフスタイル、心理学的な要因が関連するデータをお示したが、生物学的には女性の場合、エストロゲンという女性ホルモンがライフコースを通じて大きな影響力を持っている。エストロゲンは性成熟期に高い数値をとり、さらに1カ月単位に変動し月経が発来する。この変動が女性特有な症状と関連する。エストロゲンが急

速に低下する閉経期は、多様な更年期症状が出現する。これらの女性の身体的な特性を、女性はもとより誰もが認識することは家庭や職場での男女共同参画の推進に重要なである。

（4）女性専用外来とは

各都道府県で産婦人科診療とは独立した「女性専用外来」を設置、奈良県では、県立医科大学附属病院で、生活、家族、社会的な背景を考慮した女性の一生を通じた心身の健康の診療を行っている。

【3. リプロダクティブヘルスアンドライツ】

（1）「リプロダクティブヘルス」とは、性と生殖に関する健康＝性と生殖について身体的、精神的、社会的に良好な状況にあること

（2）「リプロダクティブライツ」とは、性と生殖に関する健康について、自分の意思が尊重され、自分の身体に関する自分自身で決められる権利

（3）具体的には、結婚する、しない、子どもを産む、産まない、

産むとすれば時期、人数、間隔など、選択・決定する権利（自己決定権）を誰もが持つこと。また、そのために必要な情報と手段を得ること。避妊、不妊治療、生殖器のがん、性感染症の予防や治療、母子保健、育児支援など幅広い領域に関わる概念である。

（4）がん患者の不妊治療

「医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存」

悪性腫瘍など（以下、原疾患）に罹患した女性に対し、その原疾患治療を目的として外科的療法、化学療法、放射線療法などを行うことにより、その女性が妊娠・出産を経験する前に卵巣機能が低下し、その結果、妊娠性が失われると予測される場合、妊娠性を温存する方法。本法は、原疾患治療で発生する副作用対策の一環として

の医療行為と考えられるので、治療を受ける時期に挙児希望がない場合でも、本人が希望する場合には医療行為として認められる。

（5）リプロをどのように伝えるか

国際連合、UNESCO、UNWOMENなどが包括的性教育を提唱、『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』を提示。子どもや青年が性と生殖に関する健康と権利を正しく理解し、生涯にわたって健康的で尊重に満ちた人間関係を築くために欠かせないものと位置づけ。このガイドンスは、知識の習得だけでなく、意思決定・共感・自己肯定感などライフスキル向上につながるもの。日本の課題として、これまでいわゆる「性教育」として実施されてきた内容やタイミング、画一的な方法などの検討、「ジェンダー平等、性的同意、多様性、性の権利」の視点をもりこ

む必要、若年層の課題に対応した情報提供（予期しない妊娠、性感染症、性暴力、性への価値観、否定感など）が必要。

【4. 日本女性会議2025 かしはらでの提言】

《健康・医療の分科会から》

だれもが自分の心身の特性を知り、性差医療を活用して、自分の未来を創り、健康寿命をのばして、生き生きと過ごしましょう。

《リプロダクティブヘルスアンドライツの分科会から》

生涯にわたって健康的で尊重に満ちた人間関係を築くために欠かせないものとして性と生殖に関する健康と権利を正しく理解し、特に、若年層の課題に対応した情報提供（予期しない妊娠、性感染症、性暴力、性への価値観、否定感など）を行いましょう。

視察研修旅行 〔日本平・忍野八海・美ヶ原温泉・松本〕

文化啓発委員会は11月27日（木）から奈良交通バス特別車両「四神シリーズ（朱雀）」をチャーター。静岡、山梨、長野各県の名所を巡る2泊3日のコースにて、参加者23名は一同見聞を広げた。



奈良交通バス 四神「朱雀」



岡谷蚕糸博物館

令和7年12月の予定

※予定は変更になる場合があります

【火曜午餐会】 第1、第3火曜日を定例に、12時15分から火曜午餐会、12時45分から定例講演会を開催します。

【火曜午餐会・忘年の会】

2日、火曜午餐会忘年の会を当部会議室で開催。

ゲストに、奈良フィルハーモニー管弦楽団からヴァイオリン奏者 褒田美穂さん、チェロ奏者 西川彩乃さん、ピアノ奏者 岡野弥生さんをお迎えして、ミニコンサートを開催します。

16日（第2例会）は、休会します。

【観劇会=文化啓発委員会】 4日（木）、京都四條・南座で『吉例顔見世興行』を鑑賞します。

【囲碁会】 13日（土）、20日（土）、21日（日）、27日（土）の4回、13:00～3階会議室で開催します。

【中国語会話教室】 1日（月）、8日（月）、15日（月）、22日（月）の4回、10:00～5階小会議室で開催します。

【ハングル勉強会】 1日（月）、8日（月）、15日（月）、22日（月）の4回、13:30～5階小会議室で開催します。

【無料法律相談室=会員限定】

ご希望の方は、顧問弁護士と日程調整致しますので事務局にご連絡下さい。

年末年始 事務局は12月27日（土）～令和8年1月4日（日）まで休業します。

【令和八年 四団体合同新年名刺交換会】

令和8年1月6日（火）10時30分からホテル日航奈良で開催します。

奈良 川崎法律事務所 [検索](#)



弁護士法人
川崎法律事務所
TEL (0742) 22-9000
奈良市花芝町9番地の2 川崎ビル
弁護士 川崎 祥記 弁護士 前川 典彦
弁護士 片山 賢志 弁護士 大寺 健太
◆相続・遺言 ◆企業経営法務 ◆交通事故 ◆離婚
◆不動産 ◆医療法務 ◆債権回収 ◆訴訟・法律相談全般

奈良トヨタ株式会社



本社
〒630-8141 奈良市南京終町2丁目269番地
毎週月曜定休日（祝祭日を除く）
TEL:0742-61-3301
お客様相談室:0120-288-770(フリーコール)



〒630-8444
奈良市今市町405
奈良豊澤酒造株式会社
TEL 0742-61-7636
FAX 0742-61-7658

三菱自動車

奈良中央三菱自販（株）
本社 奈良市三条栄町3-6
TEL 0742-34-7671代
奈良本店
大和郡山店
橿原店
クリーンカー奈良中央店

奈良交通株式会社



本社
〒630-8651 奈良市大宮町1-1-25
TEL:0742-20-3116 (代表)
FAX:0742-27-0727

matsuda 大切にしています
技術と心

株式会社 松田組
代表取締役 松田英志
〒630-8137 奈良市恋の窪一丁目十番十四号
TEL 0742-34-4351(代表)

奈良中央墓園（奈良市営 東山靈苑前）
～奈良市内に やすらぎの公園墓地誕生～ ご用命は
打谷石材（株）
ご夫婦仲良く（お墓参り）
TEL 0120-522-749

FUJITSU
電話とネットワークでお客様に安心と安全をご提案

関西通信建設株式会社



〒630-8451
奈良市北之庄町66番地1
TEL: 0742-63-7177

人と自然を、技術でむすぶ。
奥村組
OKUMURA CORPORATION
社長 奥村 太加典
本社 〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町2-2-2
TEL 06(6621)1101
奈良支店 〒630-8241 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル
TEL 0742(22)5001

くらぶのわ 第2回〔前編〕

コーナータイトル『くらぶのわ』は、会員の「輪」・「和」・「話」をイメージしています。

奈良豊澤酒造株式会社 代表取締役会長 豊澤安男 氏

2025年10月8日、奈良豊澤酒造本社にて

【プロフィール】

1941年（昭和16年）奈良県奈良市生まれ。1964年（昭和39年）早稲田大学法学部卒業後、奈良豊澤酒造株式会社入社。同社専務取締役就任。1984年（昭和59年）同社代表取締役社長就任。2015年（平成27年）同社代表取締役会長就任。藍綬褒章受章。1994年（平成6年）奈良県経済俱楽部副会長就任（在任期間31年）。

座右の銘、好きな言葉：「辛抱と努力」、大事にしていること：「家族・友人・お付き合い」、趣味：「日本酒を楽しみながら飲む、ゴルフ、野球観戦」、モットー：「一期一会」、ストレス解消法：「お酒を飲みながら多方面の方々と話すこと」、好きな場所：「直営店蔵元豊祝」。



——幼少期～高校生時代についてお教えください。

何といっても学友や先生に恵まれたことです。私はならまちが実家で今のニッポニアホテル奈良です。幼稚園から高校まで奈良女子大学附属に通っていました、基本的に幼稚園から高校までみんな一緒にため、一生付き合える友達がたくさんできました。幼稚園から約80年も友人関係が続くなんか中々ないですよ。今でもその友人たちと旅行やゴルフ・食事会を開催しています。あとは素晴らしい先生ばかりで、児童・学生たちと一緒に喜んだり悲しんだり、理解してくれました。その代わり教育は厳しかった、掃除もね。当時としては珍しく音楽と英語に力を入れた教育でした。新しい昭和時代を作るために、経済も伸び人も増えていき、教育も追い付こうという時代だったと思います。

——大学生時代について思い出等お教えください。

大学は東京で過ごしました。当時、東京へは湊町駅から奈良を通って名古屋へ行く『急行やまと』という汽車で煙が出る機関車でした。奈良を午後8時発の急行列車に乗り東京着は翌朝の6時です。東京に着くと八重洲口の東京温泉に入ってから下宿に行きました。奈良が恋しくて、学校が休みになると夜行列車に乗ってよっしう帰郷していました。当時1,000円あれば学割急行券750円と残り250円で弁当とビールが買えました。

大学では勉強は程々、でも、4年間東京六大学野球の応援で神宮球場へ通っていました。当時の六大学野球人気はプロ野球を上回っていました。また、練習を見るのも好きで今はホテルになってますが当時はそこに安部球場があり、時間があれば朝からずっと見てました。私が入学した年、早慶戦六連戦で母校が優勝し神宮から早稲田までちょうどちん行列に参加しました。野球の応援は良い思い出です。

あと、学生時代の思い出としては初めての一人暮らしです。最初に下宿したのは香鳥館っていう学生下宿専門のところで東京六大学の学生20人程度が住んでいました。下宿の思い出のひとつに、ある部屋から深夜コソコソ話し声が聞こえることがあって、何をやってるのかと思っていたら、その部屋が当時盛んであった学生運動の活動拠点だったようです。

——新人社員時代はどのようにお教えください。

私は昭和39年に大学を卒業し22歳で奈良に帰ってきました。私は三人兄弟の次男で兄が商売しないと言ったのと、父も私のほうが商売に向いているだろうと考え、継げと半分命令みたいに言われました。今84歳ですから、62年間、とにかく朝から晩まで休みなく商売の事だけ考えて一生懸命やってきました。趣味もなく仕事ばかりやって、休日もひとり出勤してトラックに酒を積んで問屋さんを回って売りまくりました。それでどんどんお得意さんも増えて、その努力が今に繋がっていると思います。

——高校野球部時代の恩師西浦齊監督との出会いについてお教えください。

私がこの歳になるまで支えられてきた高校時代の野球部監督の言葉があります。私は中・高で野球部に所属、高校は進学校のため受験に備え2年生で引退する選手が大方でした。当時3年生部員は3名になり全員でも9名と厳しい状態でした。そんななか私が主将に指名されたんです。主将には2つ必要なことがあります、まず上手なこと、もう一つは仲間から信頼されることです。私は下手でしたが後者の理由で選ばれたようです。自慢は下手でも3年生最後の大会まで部活動を辞めなかつたことです。3年生の夏の県予選、私は取り返しのつかないエラーをしてしまったんです。最後の大会なのでたくさん応援に来てくれていました。その時の場面は今でも鮮明に覚えています。エラーは私がセンター守備でライナー性の打球を見失い、いわゆる“バンザイ”をしてしまったんです。試合後、両親が監督や友達に謝ってるのを見て本当に辛かった。私はベンチにどうやって戻ったかも解らないぐらいで、当然叱られると思っていました。ところが監督は『豊澤、このことを一生忘れないで人生の肥やしにして生きていく。良い経験だ。』と言ってくれました。

苦い経験はしましたが、その後の人生において辛い時などこのことを思い出すたびに、西浦氏は私に良い言葉をかけていただいたと感謝しています。

（1月号に〔後編〕を掲載します）

（聞き手：池田香織、中川雅祥）